

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	神崎市立千代田東部小学校
1 前年度 評価結果の概要	・地域と連携した道徳教育の取り組みにより「ふるさと千代田の町や人が好き」99%や自己肯定感が向上するなど成果を出すことができた。 ・「自らの夢や目標の実現に向けて努力する」99%と自分を高めていこうとする気持ちを高めることができた。 ・毎学期「学習頑張ろう週間」「自学ノートの推進」などを実施したが、家庭学習時間の目標達成ができなかった。課題として残った。
2 学校教育目標	「渾身勉学」「白鳥蓮花に入る」 ～「夢に向かって、気づき・考え・行動する」児童の育成～
3 本年度の重点目標	①自分づくり(得意分野をもち、仲間と未来を語る心優しい子の育成) ②仲間づくり(意欲的で、自信をもって自己表現できる子の育成) ③学びづくり(試行錯誤し、根気強く挑戦できる子の育成)

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目				中間評価	5 最終評価	主な担当者				
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価			最終評価			
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上 (学びづくり)	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・学期末にマイプランを見直し、共通する課題等を研修会等で共有する。「授業づくりのステップ1・2・3」の振り返りを毎週行い、指導の手立ての確立の促進を図る。	B	・マイプランの達成は、78%であった。週末に行っている「授業づくりのステップ1・2・3」のチェックシートの活用及び相互参観・フリートークを推進させる。	A	・マイプランの達成は、90%であった。「授業づくりのステップ1・2・3」を活用し、教科指導や児童理解についてのフリートークが多くなってきた。相互参観も少しずつ増えてきたので、より定期的に行えるよう、学力向上COとして働きかけていく。	A	・学力向上更に頑張してほしい。	学力向上Co
	○家庭学習の習慣化	○「学年にあった時間、家での勉強ができています」と回答する児童75%以上	・毎学期「学習がんばろう週間」を行い、家庭での学習時間と内容の確認を保護者と行う。「小学生新聞」の活用を、上学年において自読タイム等で行う。	A	・「学習がんばろう週間」「小学生新聞」の実施をすることができた。家庭学習時間を達成した児童が90%であったので、2学期以降も達成できるよう、保護者や児童への働きかける。	A	・年度を通して「学習がんばろう週間」「小学生新聞」を実施することができ、「家での勉強ができています」児童は88%であった。保護者も80.4%が「できている」と答え、一定の習慣化が見られた。次年度も継続して保護者や児童に働きかけていく。	A	・児童が黙々と頑張っている姿が素晴らしい。 ・学習頑張ろう週間等の声掛けや働きかけで児童と保護者の共通目標ができて実行しやすい。	学力向上Co
●心の教育 (自分づくり)	●児童の「よさを見抜き、認め、伸ばす」支持的風土のある学級・学校づくりの取組	○カード1年間に25枚以上 ○「心タイムアンケート」各項目90%以上	・「心タイム」等で、「ほかほかカード」「心の木カード」を書かせたり、スターシールを活用したり、エンカウンターや「自慢大会」などをしたりすることで、自己肯定感の向上を図る。	A	・「心タイム」でカードを書く時間を設定したことで意欲的にカードを書く児童が増えてきた。自発的によいことをする児童が増え、スターシールの効果が表れている。2学期は新しい内容のエンカウンターに取り組みたり、自慢大会を開催したりする。	A	・心タイムのアンケート結果は全項目90%以上と目標達成できた。スターシールや自慢大会や心タイムの活動を通して、児童の自己肯定感が高まったと思われる。ほかほかカードを統一し書きやすくなったことで、カードの枚数も増えた。	A	・子供たちの心はいつも明るいように見えます。	自分づくり部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等についての組織的対応ができていますと回答した教員95%以上	・毎月1回「心アンケート」を行い、その結果を生徒指導連絡会で全職員へ共有する。 ・SCや地域の方を含めた、年2回はいじめ防止対策委員会を行う。	A	・毎月1回「心アンケート」を行い全職員で共有することで、早期に対応することができている。 ・いじめ防止対策委員会で実施し、SCや地域の方とも共有することができている。	A	・職員の学校評価アンケートの結果は100%。月1回の「心アンケート」で全職員が問題行動を把握し、SCのアドバイスなどにより、早期対応ができ、全児童が登校することができている。	A	・先生方の笑顔と言葉で元気にもなるし、暗い気持ちにもなる。 ・いじめなのか、ふざけているのかわからない時があり、子供がどのように感じているのかわかるように取り組みたいと思う。	生徒指導 教育相談
	○児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「自らの夢や目標を実現に向けて努力する」と回答する児童の割合95%以上	・各学期に「マナー教室」を実施し、学年や個人に応じた夢や目標を立て、実現に向けて何をどう行うか、考え努力を継続する。	A	・1学期のマナー教室を実施。将来の夢や目標達成のために向うを継続して取り組むかを表明でき、通知表の自己評価にも生かした。次の実施に向けて、児童の意識と実践の継続に努めていく。 ・「自らの夢や目標を実現に向けて努力する」と回答する児童の割合96%	A	・2回目のマナー教室を実施。将来の夢や目標達成のためにどう取り組んだかを振り返ることができた。「自らの夢や目標を実現に向けて努力する」と回答する児童の割合99%。 ・「自分にはよいところがある」というアンケートで、1学期88%、2学期は96%であった。自己肯定感の伸びがみられた。	A	・マナー教室は、大変素晴らしい取り組みだと思ふ。自分の考えや夢を言葉ではっきりいうことに重点が置いてあり、今後とも継続してほしい。	校内研究主任 道徳主任
●健康・体づくり (仲間づくり)	●仲間のよさが実感できる体験活動の充実	○「友達と力を合わせて、生活や勉強ができています」と回答する児童の割合95%以上 ○「昼休み外で元気に遊んでいる」と回答する児童の割合90%以上	・縦割り活動を充実させるため、毎学期縦割り班対抗の種目を児童が主体的に計画し、実行する。 ・縦割り班を有効に活用し、体育的行事やスポーツチャレンジによる体力づくりへの取組を行う。	A	・アンケート結果は97%だった。縦割りでのスポーツ大会を実施することができた。2学期も継続して、実施していく。 ・アンケートの結果は90.9%だった。体育大会での練習やスポーツチャレンジの奨励を積極的に行い、95%を目指す。	A	・アンケート結果は97%だった。保健運動委員会が縦割り班対抗紙飛行機大会を企画し、実施することができた。 ・アンケートの結果は92%だった。運動頑張ろう週間を取り入れ、実施した。今後も運動に親しむような取組を行っていく。	A	・コロナ禍において、行事等が縮小や中止になり、児童が集団で交流する機会が減少している。このことが子供の育ちに影響をどのように及ぼすか懸念される。 ・スキルタイムの中で教え合う子供の姿があり、仲間づくりの成果が学習の中にも表れていると感じた。	体育主任
	●「白鳥蓮花に入る」の精神が生きるボランティア活動の充実	○ボランティアパスポート1冊以上100% ○進んで元気なあいさつをする児童、あいさつ運動に取り組む児童90%以上	・ボランティア集みや放送で、委員会の児童がボランティアについて伝えるようにし、全児童が自主的にボランティア活動に取り組むようにする。 ・あいさつやあいさつ運動など、よい行いをしている児童を各学級や全校朝会などで紹介する。	B	・高学年の児童が進んであいさつをしている。スターシールを活用し、自主性を育みたい。 ・ボランティア活動に取り組んでも、カードに記録をしていない児童がいるので、月1回ボランティア振り返りタイムを設定する。ボランティアパスポート一冊以上の児童100%をめざす。	A	・どの学年の児童も、自分にできることは何かを考えて、自主的にボランティア活動に取り組むことができた。全児童がボランティアパスポート1冊以上終えることができた。 ・高学年の児童は、あいさつ運動や清掃活動等、学校全体のことを考えて活動することができた。	A	・さりげない言葉、行動が入りに影響すると思う。	仲間づくり部
	●「望ましい生活習慣の形成」	○学年に応じた就寝時間を守る児童の割合80%以上	・保健だよりや長期休業前の生活の話などを通して、家庭での過ごし方(勉強やゲーム等の時間)のルール作りなどの啓発を行う。	A	・保健だよりや長期休業前の話で啓発し、望ましい生活習慣が向上している。学校生活アンケートの「早く寝ることができている」と答えた児童は87%だった。	A	・学校生活アンケートの結果、88%の児童が就寝時間を守っていた。今後も、継続して「ほけんだより」で家庭へ啓発し、感染症対策とつなげていく。	A	・家庭でのしつけ等にも影響する大切なアンケートだと感じる。この結果をもとに効果のある取り組みを行ってほしい。 ・家庭形態の変化やゲーム等の普及により、就寝時刻が遅くなってきており、心配される。	生徒指導 養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・18:15の全職員退勤時刻と毎週金曜日の定時(17:30)退勤日を周知徹底し、実践する。	A	・概ね退勤時刻の実施徹底にめることができた。 ・全職員の平均時間外勤務時間を月平均2時間削減する。	A	・2学期の多忙な中、効率的に業務を行い退勤時刻を意識できた。 ・全職員の平均時間外勤務時間を月平均約4時間の削減ができた。(8月～12月)	A	・月平均2時間の短縮目標に対し、4時間短縮できたことはよかった。	教頭
	○働きやすく、疲労蓄積の低減を目指した働き方改革の推進	○「疲労蓄積度自己診断チェックリスト」での「負担度 やや高い」職員の割合15%未満	・校務用フォルダの整理活用、提出文書や校務分掌の標準化を図り、各指導部で行事等に複数で対応するように努める。	A	・「疲労蓄積度自己診断チェックリスト」での「負担度 やや高い」職員の割合11%(7月実施)だった。 2回目の「疲労蓄積度自己診断チェック」(12月頃)実施する。	A	・「疲労蓄積度自己診断チェックリスト」での「負担度 やや高い」職員の割合17%(1月実施)だった。7月より1名増加した。これまでに、日々のコミュニケーションを更に密にしている。	A	・さらに職員間の声掛けを密にしてほしい。 ・チーム力で、疲労蓄積度縮小の取り組みを行ってほしい。	教頭 養護教諭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価	最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
○地域の特徴を生かした教育 (仲間づくり)	○地域教材の活用 (「次郎の里」教育の実践)	○「千代田の町や人が好きです」と回答する児童95%以上	・下村湖人生家体験学習を、各学年1回実施する。	A	・アンケートの結果は97%だった。体験学習の声かけ、総合や生活科で千代田町に触れる実践を行っていく。	A	・アンケートの結果は98%だった。総合での地元農家の学習や生活科での地域企業での学習、次郎週間の設定を行った。次年度も地域に根ざした学習を行っていく。	A	・地元の農家、企業での体験学習は、大変良い取り組みだと思ふ。 ・さらに情報を集めて、もっと体験活動を増やしてほしい。	特別活動主任 教務主任

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・「『夢に向かって、気づき・考え・行動する』児童の育成」を重点に置き、マナー教室等を実施することができた。その結果「自らの夢や目標を実現に向けて努力する」と回答する児童の割合99%、「自分にはよいところがある」というアンケートで、1学期88%、2学期は96%であった。 ・向上心や自己肯定感の伸びがみられた。 ・コロナ禍という状況ではあったが、オンライン、規模縮小、内容変更等の工夫を試みながら、学校行事を実施することができた。これらの経験が、教科学習の授業だけでは得ることのできない達成感や協働性、責任感等を向上させることができた。 ・家庭学習の習慣化については、「家での勉強ができています」児童は88%であった。保護者も80.4%が「できている」と答え、一定の成果が見られた。次年度も家庭での生活習慣と併せ、継続して保護者や児童に働きかけていく。
--------------------	--